

## 56. 衣生活設計に関する研究

### ——主婦の衣服所持数について——

帝塚山学院短大 岩橋 節子  
大阪府立鳳高校 岩橋すみ子

1. 衣生活を合理的に行うには、各自の生活に適合する量と質の衣服を確保し、これを合理的に運営するにある。その基本となる衣服の所持数は衣服原料、材料の生産状況のほか、国民各戸の経済、文化、職業、気候その他の原因に支配されるが、この実状は未だ明らかでない。よって著者等は大阪府、市の中、高等学校の生徒の家庭主婦及び婦人団体所属主婦の衣服所持数調査を行い衣服所持数の分布と、これの地域別、年令別の関係を検討したので、その概子を報告する。

2. 調査対象は大阪市内、中学校、5校、府下、高等学校、8校、婦人団体、1の家庭主婦で、1グループあたり70名、計980名である。回収率は90%であった。

主婦の年令構成は10才代 2%、20才代 2%、30才代 12%、40才代 46%、50才代 25%、60才以上 1%、不明 12%である。

調査項目は各主婦の所持する衣服を日常着、外出着、仕事着にわけ、またそれぞれ上衣、下衣及び內衣、外衣別に所持数を調査した。